第三者評価結果概要版（通所介護【デイサービス】）

○基本情報

法人名	社会福祉法人芳洋会
事業所名	在宅サービスセンターひので理想郷の園
所在地	西多摩郡日の出町平井３０７６番
連絡先	042-597-3200

○事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）

１）安心と充実の人生をご一緒に
２）あたりまえのことをあたりまえに
３）人材の確保と育成
４）高品質なサービスの提供
５）組織風土の充実

○全体の評価講評（特に良いと思う点）

【法人のバックアップのもと、地域の高齢者のセーフティネットとしての役割を果たそうとしている】

終末期に近く医療的なケアを要する方や、重度の認知症にともなう周辺症状に苦しむ方など、対応の難しい方であっても、担当のケアマネジャーを介して主治医との連携を図りながら受け入れている。自分らしい自立した在宅生活の継続を望む本人やその家族の願いに寄り添い、全力で支えることで、地域の高齢者のセーフティネットとしての役割を果たそうとしている。運営主体である社会福祉法人が地域に展開する在宅サービス及び中核施設としての特養によるバックアップ体制があることが、事業所にとって大きな強みとなっている。

【利用者が忘れていたり、あきらめていた願いを引き出し、その実現を図ることで、生活の活性化につなげている】

アセスメントにおいて必要な介護の量や範囲を見極めながら、利用者個々の状況に合わせた方法で活動及び生活を支援している。利用者の人となりを知るために、本人や家族から聞き取った情報をもとに、農作業を得意とする利用者に対しては個別にガーデニングの活動を提供している。また、利用者の希望に応じて外食の機会を設け、中には十数年ぶりにラーメン屋に出かけて念願を果たした利用者もあったという。利用者が忘れていたり、あきらめていた願いを引き出し、その実現を図ることで、生活の活性化につなげている。

【利用者本人の意思を尊重し、利用者が時間の過ごし方を自分で決めることを大切にしている】

「あたりまえのことを、あたりまえに」という法人の行動指針のもと、利用者本人の意思を尊重し、利用者が時間の過ごし方を自分で決めることを大切にしている。滞在時のスケジュールを立てている利用者には、それに従って自然な時間を過ごす姿を職員がさりげなく見守っている。人のざわめきの中で自分一人の時間を楽しみたい利用者には、デイルームの一角にその人の居場所を作り、そこで新聞や本を読むなどして自由に過ごしてもらっている。ロビーの談話コーナーや中廊下のソファ等、あちこちでおしゃべりを楽しむ利用者の姿が見ることができる。

○全体の評価講評（さらなる改善が望まれる点）

【新たな様式のアセスメントシートの全面的な展開により、利用者のその人らしさに焦点を当てた、より個別性の高い支援の実現が期待される】

今年度よりアセスメントシートを利用者の人となりを知る手がかりとなる情報を収集し把握しやすい様式に改めたものの、部分的な運用にとどまっている。既存の利用者に関しては、自己主張があまり盛んでない方やコミュニケーションが取りづらい方に対するアセスメントから段階的に移行を進めるとともに、他の利用者に関しては気付いたときに職員が書き込み、会議の場で共有するようにしている。新たな様式によるアセスメントを今後、全面的に展開することにより、利用者のその人らしさに焦点を当てた、より個別性の高い支援を実現することが期待される

【日々積み重なる支援記録から利用者の姿やニーズの把握につながる情報を拾い上げ、個別支援計画に反映する仕組みを整えることが期待される】

個別支援計画を軸にしながら、職員は利用者の状態の変化等について共有すべき気づき等を申し送り用のノートに日々記録している。そこには個別の支援計画に対するモニタリングや利用者のその人らしさの把握につながるアセスメントに直結する内容が含まれている。そうした貴重な情報を毎日積み重なる記録の中から効率的に拾い出し、確実に計画の見直しに反映する仕組みを整えることが期待される。また、個別支援計画の内容やアセスメント及びモニタリングの視点を念頭に置いた記録の書き方について、職員のスキルをさらに高めていくことが望まれる。

【事業所のキャパシティをフル稼働し、質の高いサービスをより多くの利用者に還元することが期待される】

厳しい競争環境のもと、一昨年度から 2 年続けて定員を減らす中で、今年度は利用率の安定を図るための新規利用者の獲得を重点課題に据えている。重度の認知症のある方の利用希望にも対応してきたことで、介護報酬の加算要件を満たし、昨年度よりも収入は増えている。今後、事業所のキャパシティをフル稼働し、質の高いサービスをより多くの利用者に還元するためにも、法人のスケールメリットと事業所の強みを活かした啓発活動をより活発に地域で展開し、新たなニーズを掘り起こして利用につなげていくことが期待される。

○事業者が特に力を入れている取り組み

【法人の内部監査や事例検討会を通じて業務の手順等を定期的に見直し、改善を図っている】

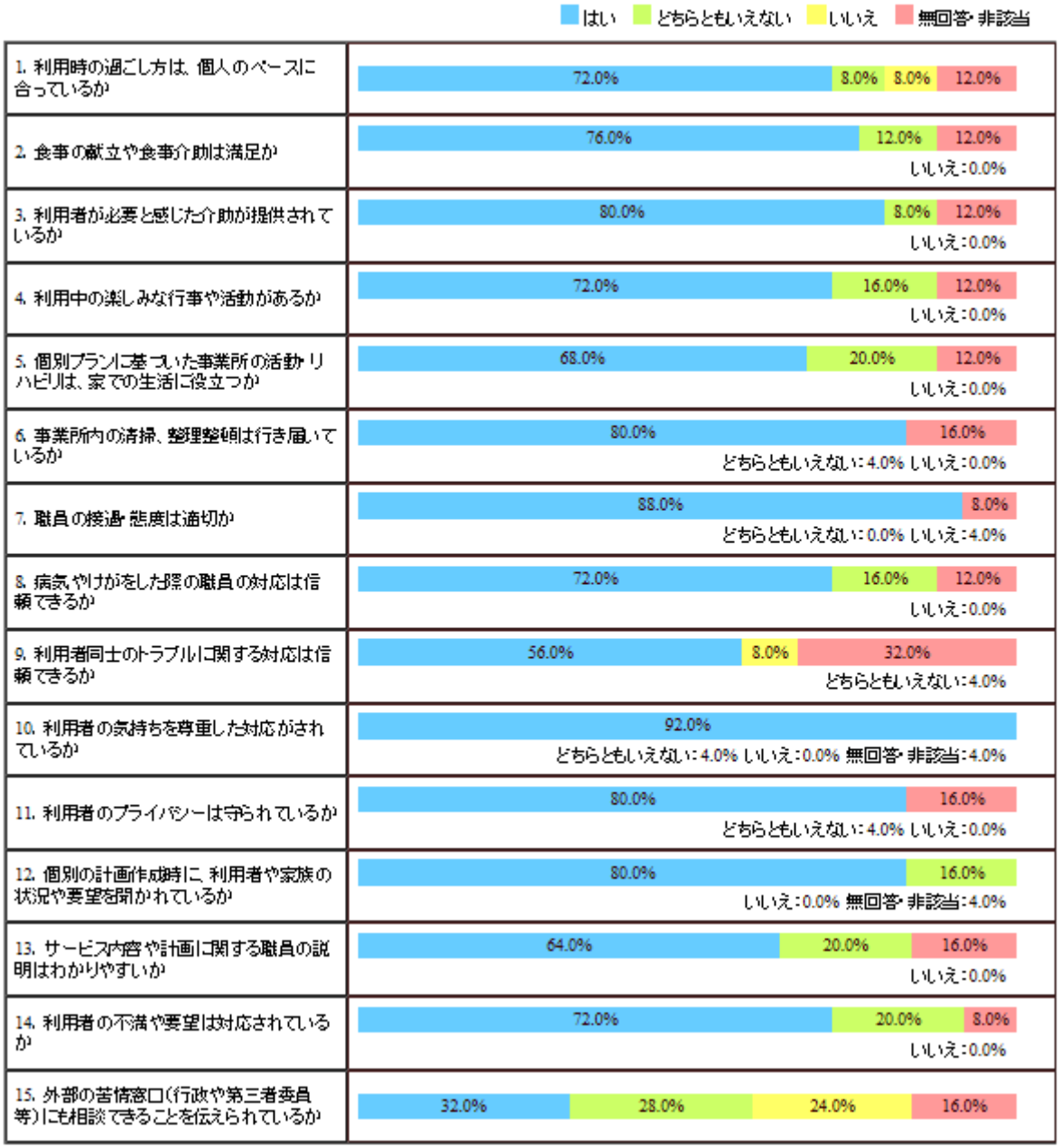
品質管理の国際基準に従って、業務を推進するために必要とする各種のマニュアルを整備している。各マニュアルが実際の業務に沿っているかを把握するため定期的な内部監査を行うとともに、年度末にマニュアルの点検・見直しを行っている、また、法人の在宅サービス部で年 5 回、事例検討会を行い、情報の共有と職員のスキルアップにつなげている。それぞれの事業所の活動内容を報告し合う中で、サービスの改善や手順等の見直しに役立てている。

【必要な介護の量や範囲を見定め、職員が共通認識をもって利用者の支援にあたっている】

利用者の自立支援という基本方針のもと、アセスメントをもとに必要な介護の量や範囲を見定め、個別支援計画に反映して、職員が共通認識を持って利用者の支援にあたっている。利用者がスケジュールに動かされることなく、主体的に時間を過ごす姿を職員がさりげなく見守っている。また、ケアマネジャーが主宰するサービス担当者会議に職員が参加し、利用者の状況の変化等について報告を行うとともに、必要に応じてケアプランの変更等の提案を行っている。担当者会議の議事録を事業所内でも作成し、職員間で情報の共有を図っている。

【ボランティア講師による多彩なクラブ活動や外出の機会により生活の活性化を図っている】

脳活性プログラムやカラオケ、体操など複数の日中活動のメニューが用意され、希望した利用者が主体的に取り組んでいる。活動は心身機能の維持・向上を図るねらいを持ちつつ、大人が楽しめる内容になっている。また、利用者の状況と要望を踏まえて、定期的に外食を楽しんだり、近隣のショッピングモール等に出かける機会を設けている。利用者が当たり前に行ってきた地域生活を取り戻すことで、利用者の社会性の維持や生活意欲の向上につなげている。長年にわたりクラブ活動の講師を務めるボランティアと会うことが動機づけになっている利用者もいる。

○利用者調査結果

有効回答者数	２５人
利用者総数	４６人